

2010年3月期 決算説明会



2010年5月14日
日本海洋掘削株式会社



- 1. 2010年3月期 事業トピックス**
代表取締役社長 村田 稔
- 2. 中期経営戦略**
代表取締役社長 村田 稔
- 3. 2010年3月期 決算概要**
代表取締役専務執行役員 川瀬 昭雄
- 4. 2011年3月期 業績予想**
代表取締役専務執行役員 川瀬 昭雄

1. 2010年3月期 事業トピックス

代表取締役社長

村田 稔

■ HAKURYU-5

ベトナム沖稼働にてDeep Dish工事後の安定性能を立証すると共に、石油開発会社から高い評価と信頼を獲得



ドライドックにてDeep Dish装着後の「HAKURYU-5」



Deep Dish工事後、ベトナム沖へ曳航中の「HAKURYU-5」

■ HAKURYU-10

地中海での順調稼働により、当社のグローバルな操業体制を更に強固に



最終建造段階の「HAKURYU-10」



チュニジア沖で稼働中の「HAKURYU-10」

■ NAGA 1

世界でも稀な9年間・300万人時間の連続無災害記録を達成※



マレーシア沖で稼働中の「NAGA 1」

※2009年7月8日達成(現在も記録更新中)



300万人時間無災害記録達成記念
PCSB(Petronas Carigali)社より受賞

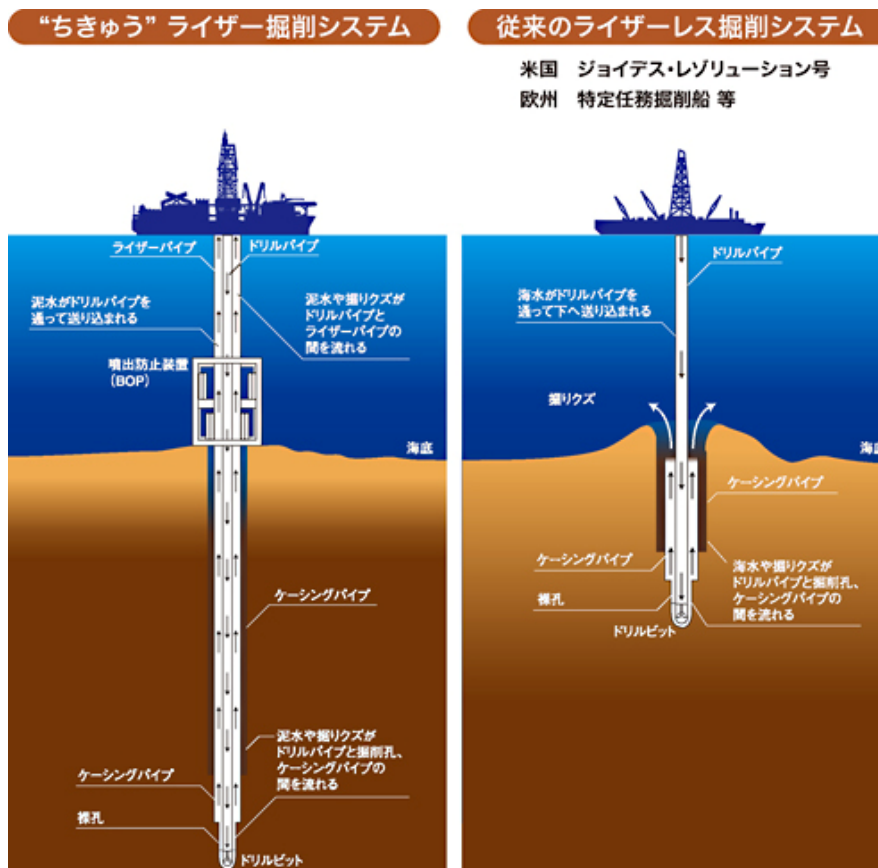
■ちきゅう

世界初の科学目的ライザー掘削に成功、将来の商業資源掘削への確かな布石



「ちきゅう」

(写真提供: JAMSTEC)



ライザー掘削

ライザーレス掘削

(JAMSTECホームページより)

2. 中期経営戦略

代表取締役社長

村田 稔

経営理念

永続的発展と企業価値の継続的拡大

1. 顧客のニーズに応え、海洋掘削事業を核とする諸事業を通じて、日本と世界の国々の発展に貢献します。
2. 社会規範と企業倫理に則った経営を行い、技術と機動力を活かして企業価値を高め、持続的発展を目指します。
3. 安全操業を徹底し、海洋・地球環境の保全に努めます。

経営目標

安定・安全操業体制の確保と強化

グローバルに操業を続け、安定的に事業を発展させていく

成長戦略の実行

将来の業界トップ10入りを目指しリグフリートの増強に取り組む

企業体質・管理体制の強化

安定的かつ持続的成長を支える堅固な企業体質づくりを図る

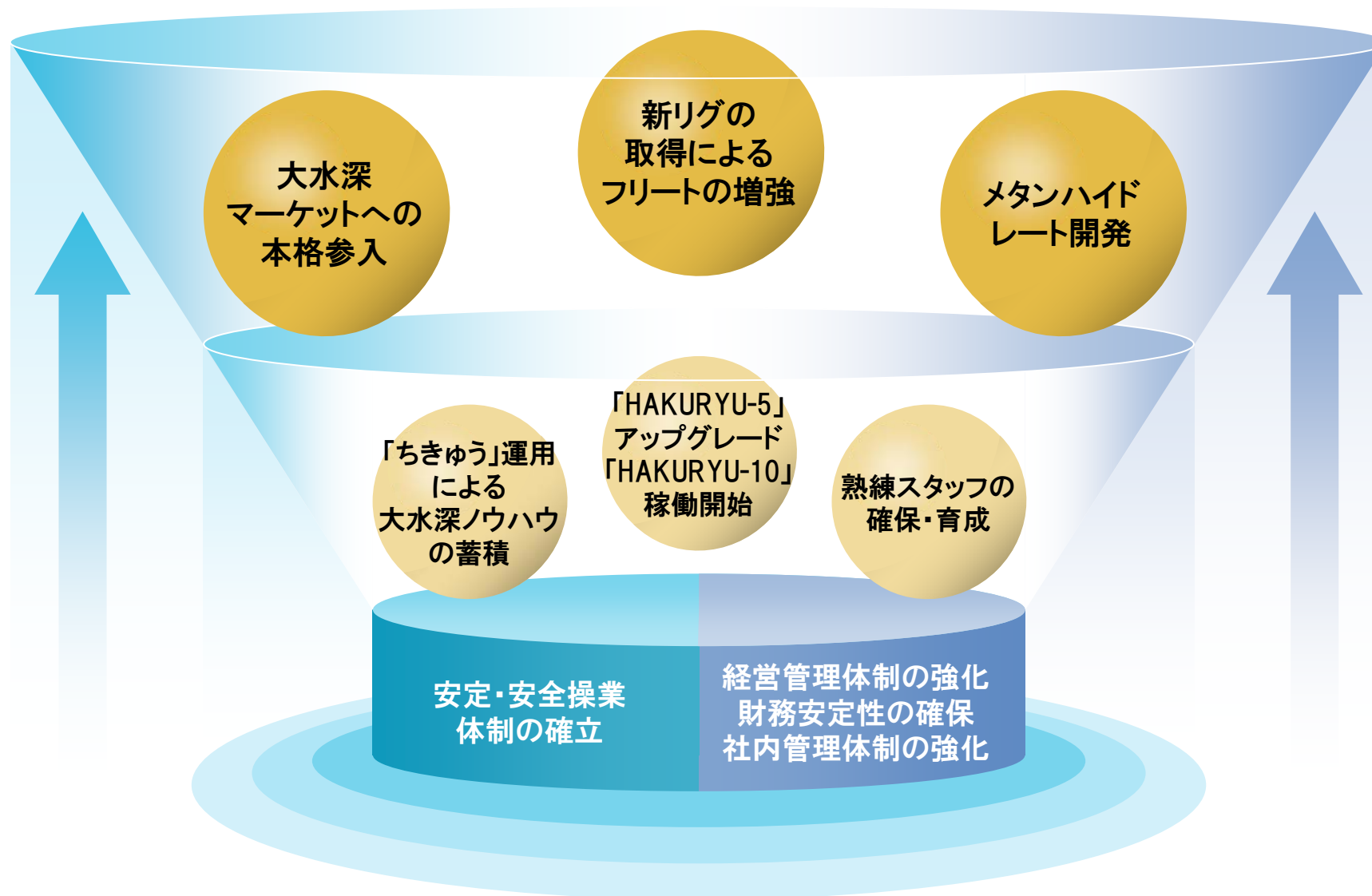
中期経営戦略

- 長期安定的操業基盤の確保・維持
- 安全操業の徹底

- リグフリートの増強
- 大水深マーケットへの本格参入
- 成長戦略の実現に向けた取組み(人材の育成・確保他)

- 経営管理体制の強化
- 財務安定性の確保
- 社内体制の整備と強化

今後の成長イメージ



ホップ

大水深海域掘削ノウハウの取得

- 「ちきゅう」での大水深掘削のノウハウ取得
- PETROBRAS向けのドリルシップ建造のエンジニアリングを監督



(写真提供: JAMSTEC)

ステップ

大水深掘削プロジェクトへの参画(南米、西アフリカ、東南アジア他)

- 大水深リグ保有会社への共同出資
- 「ちきゅう」の大水深海域資源掘削工事案件の受注

ジャンプ

大水深リグ保有会社として操業

- 「HAKURYU-5」のより深い海域への稼働対応
- 大水深新リグ案件の推進



3. 2010年3月期 決算概要

代表取締役専務執行役員

川瀬 昭雄

当社グループ運用リグの展開状況 (2010年3月31日現在)



リグ名:SAGADRIL-1
ペルシャ湾で操業



リグ名:SAGADRIL-2
ペルシャ湾で操業



(写真提供:JAMSTEC)

リグ名:ちきゅう
科学掘削に従事
リグ保有者:独立行政法人
海洋研究開発機構



リグ名:HAKURYU-5
インド沖ベンガル湾で操業



リグ名:HAKURYU-10
チュニジア沖で操業



合弁会社名:Gulf Drilling International, Ltd (GDI) ※








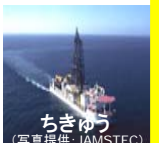
リグ名:NAGA 1
合弁会社名:UMW JDC Drilling Sdn. Bhd.
(UJD)
マレーシア沖で操業

※GDIは持分法適用会社であり、ジャッキアップ型海洋リグ5基及び陸上リグ4基を保有し、カタール沖合い及び陸上油田において操業

2010年3月期 リグフリート操業実績



2009.4

	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
 HAKURYU-5		Plains社	Premier社 ONGC社 ベトナム	Plains社 ONGC社 BP社 Premier社	Gazprom社 インド
 HAKURYU-10		ENI社 チュニジア			BG社 チュニジア
 SAGADRIL-1		POGC社/ NIDC社 イラン			
 SAGADRIL-2		POGC社/ NIDC社 イラン			
 NAGA 1		Conson社 ベトナム	PCSB社 マレーシア		
 ちきゅう (写真提供: JAMSTEC)		メンテナンス・慣熟訓練		IODP科学掘削 (熊野灘)	コアリング作業訓練航海、 各種整備工事等

稼働 移動 待機

2010年3月期 連結決算要約



(単位:百万円)	2009年 3月期	構成 比率	2010年 3月期	構成 比率	増減	増減率
売上高	21,168	100.0%	36,596	100.0%	15,428	72.9%
営業利益	3,787	17.9%	11,319	30.9%	7,532	198.9%
経常利益	5,316	25.1%	14,117	38.6%	8,801	165.5%
当期純利益	3,503	16.5%	10,042	27.4%	6,539	186.7%
1株当たり 当期純利益(円)	218.96	—	606.24	—	387.28	176.9%

2010年3月期 連結損益計算書

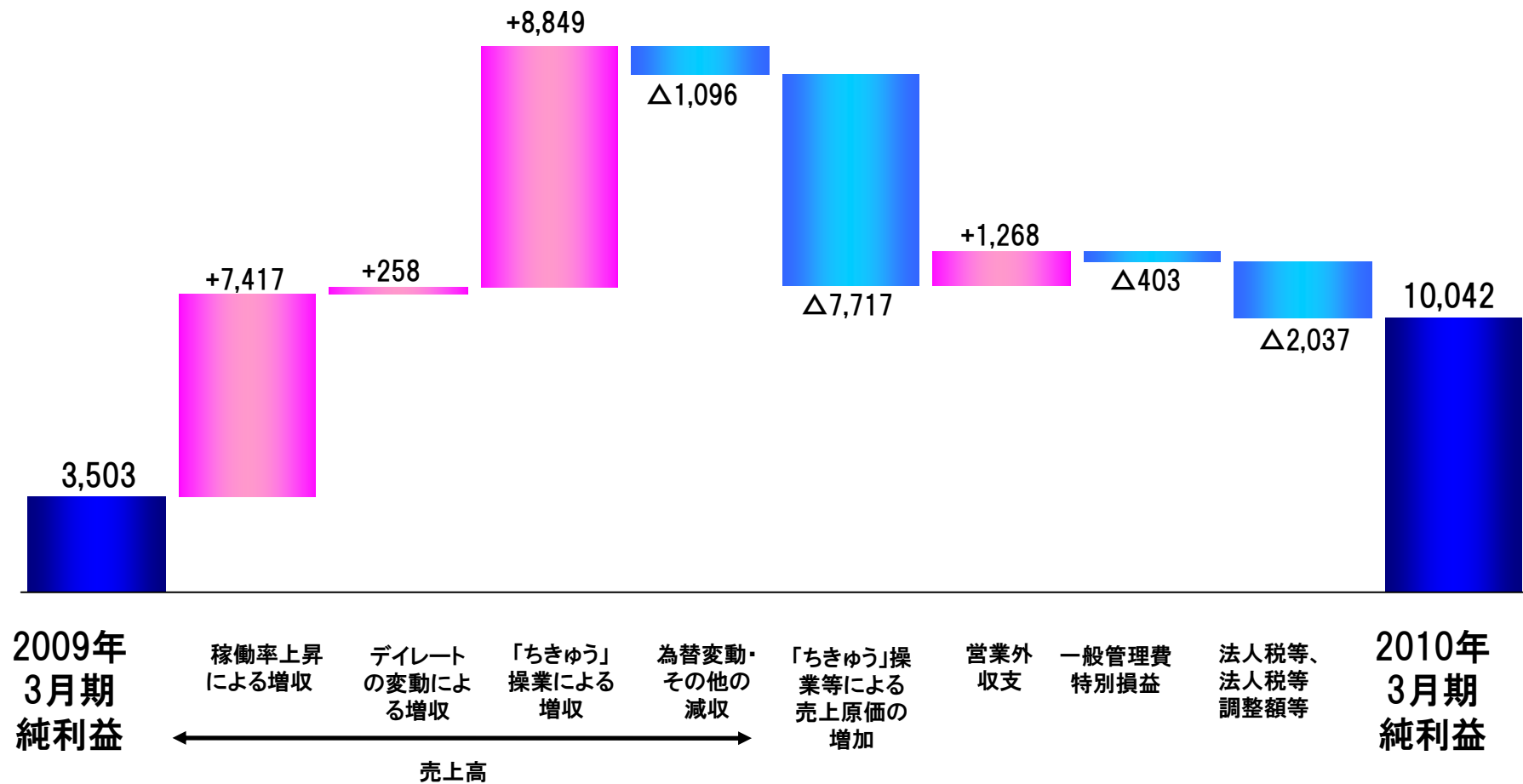


(単位:百万円)	2009年3月期	2010年3月期	増減	増減率	
売上高	21,168	36,596	15,428	72.9%	「ちきゅう」 : +88億円 「HAKURYU-5」 : +43億円 「HAKURYU-10」 : +23億円
売上原価	14,441	22,158	7,717	53.4%	「ちきゅう」 : +79億円 減価償却費 : +22億円 動復員費 : △13億円
販売費及び一般管理費	2,940	3,118	179	6.1%	
営業利益	3,787	11,319	7,532	198.9%	
営業外収益	2,603	3,649	1,046	40.2%	持分法投資利益 : +10億円 (GDI)
営業外費用	1,074	851	△223	△20.8%	
経常利益	5,316	14,117	8,801	165.6%	
特別損益	△12	△236	△224	-	
税引前利益	5,304	13,880	8,576	161.7%	
法人税等	2,317	3,778	1,461	63.1%	
法人税等調整額	△413		△413	-	
少数株主利益	△103	60	163.4	-	
当期純利益	3,503	10,042	6,539	186.7	

2010年3月期 純利益の増減要因(前期比)



(百万円)



2010年3月期 連結貸借対照表



(単位:百万円)	2009年3月期	2010年3月期	増減	増減率
流動資産	17,612	30,604	12,992	73.8%
有形固定資産	27,165	23,038	△ 4,127	△ 15.2%
無形固定資産	190	287	97	51.1%
投資その他	6,806	8,858	2,052	30.1%
資産合計	51,774	62,788	11,014	21.3%
流動負債	15,633	12,675	△ 2,958	△ 18.9%
固定負債	14,738	11,838	△ 2,901	△ 19.7%
純資産	21,402	38,274	16,872	78.8%
負債・純資産合計	51,774	62,788	11,014	21.3%
自己資本比率	41.1%	60.7%	19.6	
1株当たり純資産(円)	1,330.00	2,116.23	786.23	59.1%

現金及び預金: +54億円
 有価証券: +105億円
 営業未収入金: △33億円

減価償却実施: △56億円

短期借入金: △61億円

長期借入金: △19億円

資本金: +36億円
 資本剰余金: +36億円
 当期純利益: +100億円

2010年3月期 連結キャッシュフロー



(単位:百万円)	2009年3月期	2010年3月期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	△1,844	19,520	
税金等調整前当期純利益	5,304	13,880	
減価償却費	3,734	5,859	
持分法による投資利益	△ 2,466	△ 3,436	
売上債権の増減額(△は増加)	△ 4,458	2,977	
法人税等の支払額	△ 5,879	△ 2,266	
投資活動によるキャッシュフロー	△ 8,123	△ 7,712	
有形固定資産の取得による支出	△ 8,152	△ 2,239	
財務活動によるキャッシュフロー	8,956	△ 1,006	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△3,806	△ 5,300	
長期借入金の純増減額(△は減少)	15,138	△ 2,168	
株式の発行による収入	—	7,108	
現金及び現金同等物の 期末残高	3,959	14,858	10,899





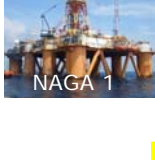

4. 2011年3月期 業績予想

代表取締役専務執行役員

川瀬 昭雄

2011年3月期 リグフリート操業展開

2010.4

	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
 HAKURYU-5		GAZPROM社 インド	受注活動中		
 HAKURYU-10		BG社 チュニジア	整備工事	COBRA CASTOR社 スペイン	
 SAGADRIL-1		POGC社/NIDC社 イラン			
 SAGADRIL-2		POGC社/NIDC社 イラン	整備工事	POGC社/NIDC社 イラン	
 NAGA 1		PCSB社 マレーシア			
 ちきゅう (写真提供: JAMSTEC)	コアリング作業訓練航海、 各種整備工事等	IODP科学掘削 (整備工事他)		IODP科学掘削	

(注) 契約期間中でも、リグは整備等のために稼働を中断させることがあります

契約済
 営業中
 整備等

2011年3月期 連結業績予想



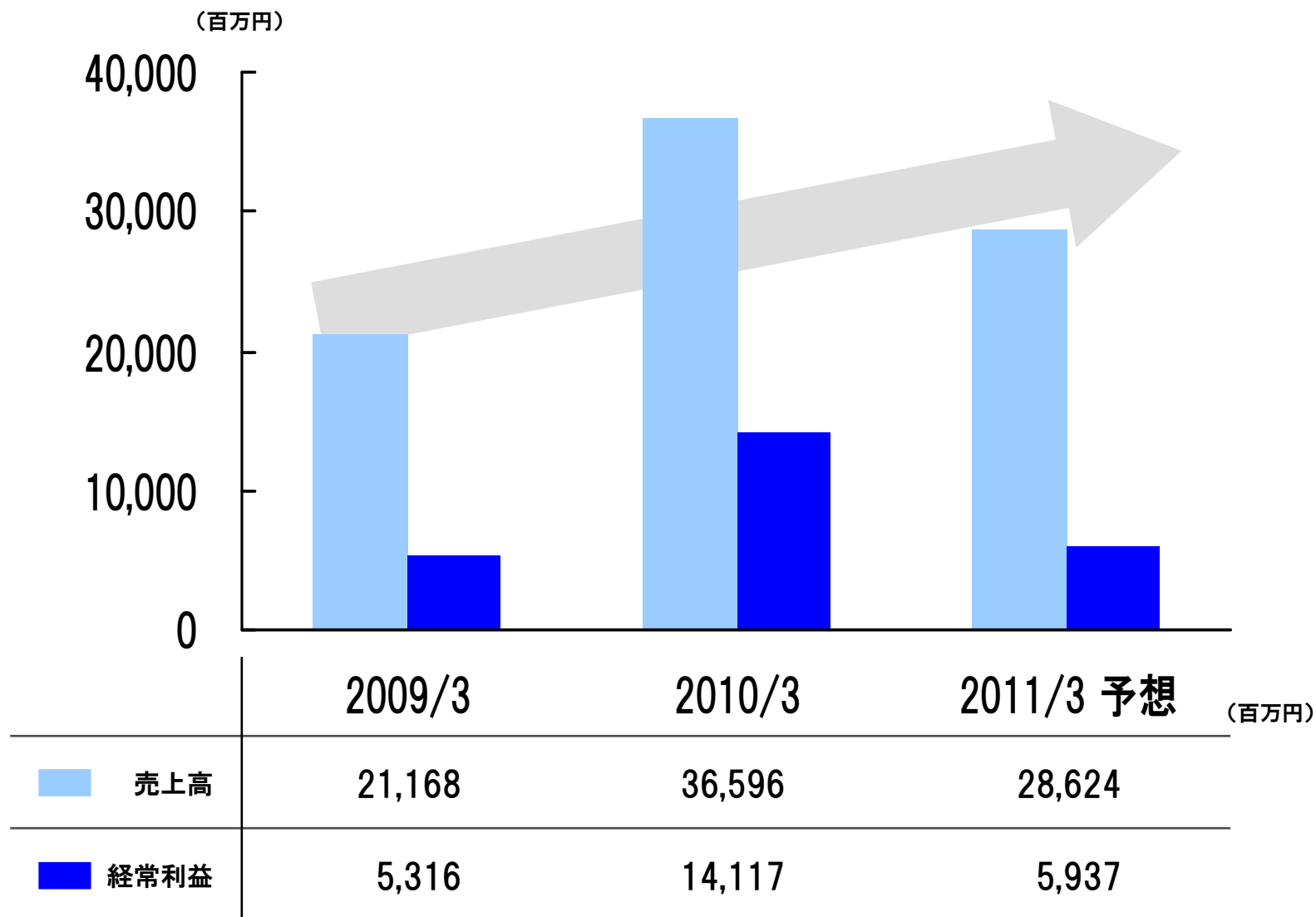
(単位:百万円)	2009年 3月期実績	2010年 3月期実績(A)	2011年 3月期予想(B)	増減(B)-(A)
売上高	21,168	36,596	28,624	△ 7,973
営業利益	3,787	11,319	4,759	△ 6,560
経常利益	5,316	14,117	5,937	△ 8,180
当期純利益	3,503	10,042	4,124	△ 5,918

1株当たり 当期純利益(円)	218.96	606.24	229.17	△ 377.07
-------------------	--------	--------	--------	----------

業績予想 売上変動要因(前期比)

HAKURYU-5 :△21億円
 HAKURYU-10 :△17億円
 SAGADRIL-2 :△14億円
 ちきゅう :△22億円

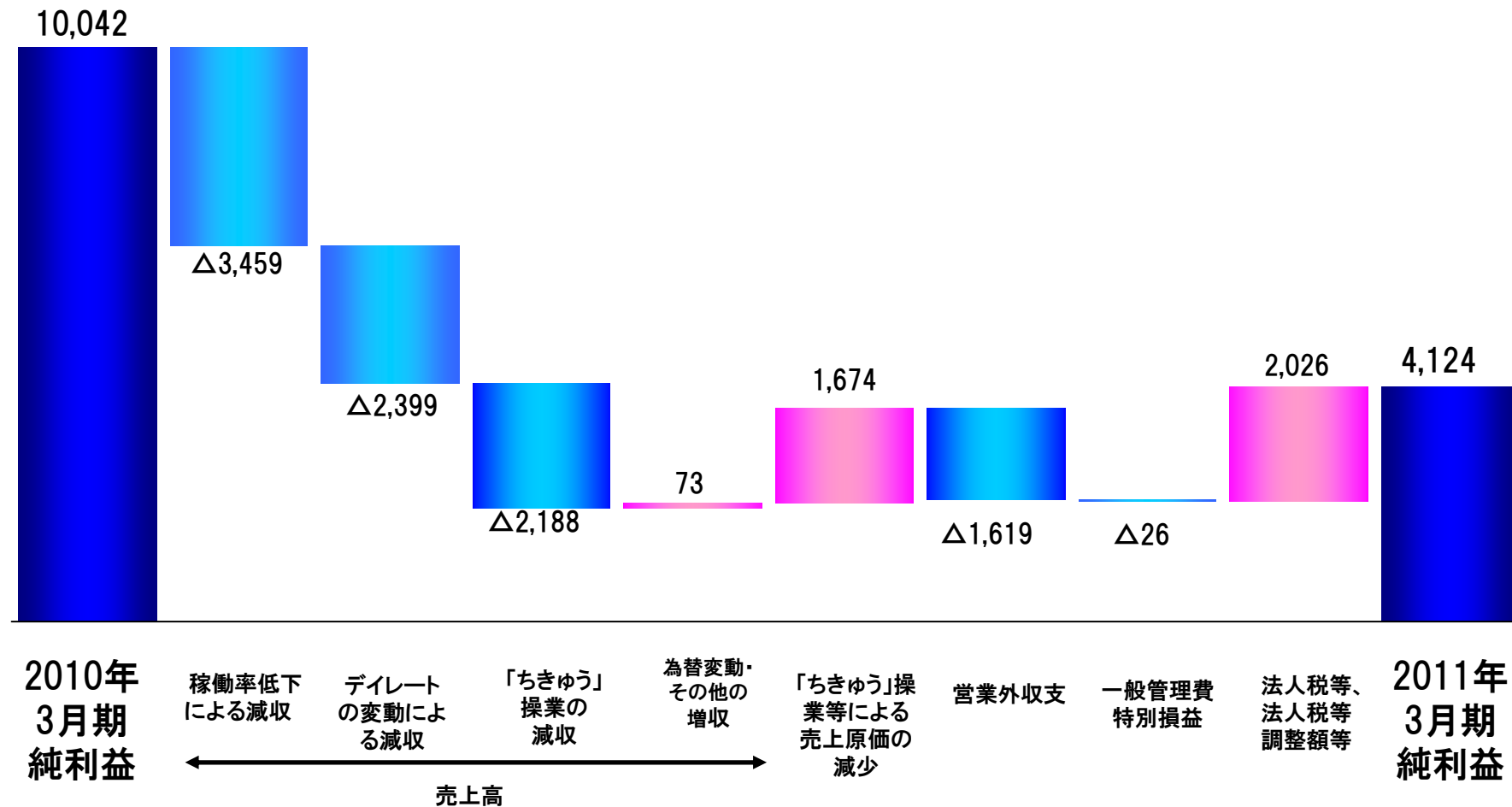
連結売上高と経常利益の推移



2011年3月期 純利益の増減要因(前期比)



(百万円)





(注) 契約期間中でも、リグは整備等のために稼働を中断させることがあります

契約済 営業中 整備等

【本開示資料ご利用にあたっての留意点】

本発表資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、種々のリスク、不確実性および前提・仮定を内包しております。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。

これらの情報は、発表時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、これらのリスクや不確実性が顕在化しあるいは現実が前提・仮定と異なった場合、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみには全面的に依拠することは控えられますようお願いいたします。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) 当社の事業領域を取り巻く環境、特に原油・天然ガス価格の動向、国営あるいは民間の石油開発会社による探鉱開発活動の動向ならびに同業者間の競争やリグの需給関係
- (2) 客先による工事発注のキャンセルや工事契約の早期解約
- (3) 事故、災害、不可抗力等による作業の中断や工事契約の早期終了
- (4) 造船所でのリグ設備の保全・増強工事等の工期遅延や工事費用の増加
- (5) 海外での事業展開に伴う現地での政治的・経済的要因、戦争・暴動・テロ等の社会的混乱、その他のカントリーリスクによる不利な影響
- (6) 為替レートや金利の変動
- (7) 公的規制の改訂、変更等および訴訟等の法的手続の結果

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

日本海洋掘削株式会社 経営企画室 IR・広報グループ 電話03-5847-5850(代表)